

陽気だより

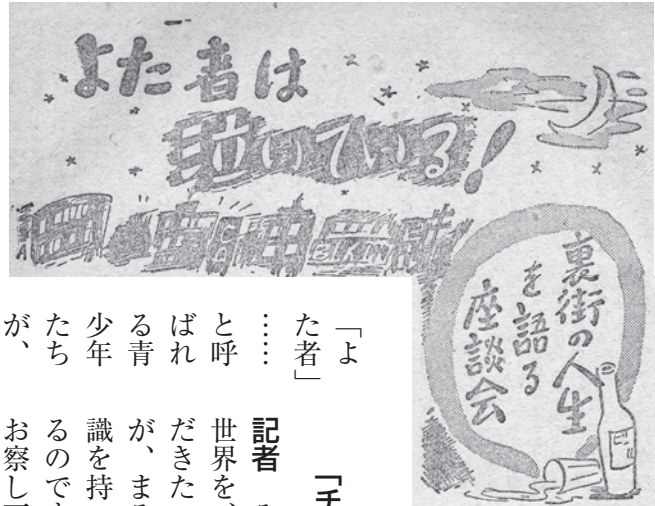
養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No. 44 2010.11.15

第5号(24年9月号)から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で61年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



「よた者」を、いかに導くべきかを、真剣に考えている。それでは彼等は何を考えているか、話を聞くことにしよう。

「チンピラ」とは誰

記者 みなさんの経験された世界を、そのまま話していただきたいのです。質問する私識を持つていないので困っているのですが、みなさんの方でお察し下さってお話し願いたいと思います。……「チンピラ」というのがいますね。私らは、「よた者」の種を指すのだと思うていますが、やはりそうですか。

戦後の都会にあふれている。一体、彼等は、いかに生きているのか？ また、どんな気持でいるのか？ この座談会では、その疑いを解こうと思うのである。

語り手はいずれも東京、名古屋で名の通った人々であり、三、四ヶ月前までは名古屋の広小路や東京の銀座をのし歩いていたのが、今日はハッピー姿のりりしきで昔の華美を見事捨て切つて働いている。語り手の五人はみな、全国に四

倉石 「チンピラ」というのは名古屋だけでしょ。大阪では「デンコ」です。

記者 戦前からいましたか。

徳成 そうでしょうね。

小林 でも、私たちが知ったのは戦後だわね。「やくざ者」

は昔からあったけど、「チンピラ」が氾濫したのは戦後でしょ。

よう。

記者 やくざとチンピラと、どう違うのですか？

小林 チンピラには親分がないのですよ。

倉石 こいつ等は一つの暴力団だ。

小林 そうよ。ゆすつたり、たかつたり、そればかりね。やくざと呼ばれる者は、それをやりませんわ。

記者 それで、「チンピラ道」というのがあるのですか。



小林 仲間はあるのよ。でも、「道」までは、いつてないでしょうね。

富田 チンピラという奴は弱いものいじめをする、ぬすつ

とをする、蠅みたいな存在です。今日になって彼等こそ本

当に社会の穀象だと思ひます。

記者 その前身は何ですか。

倉石 ほとんど軍隊のなり上

り者か、特攻隊くずれです。

徳成 私は予備学生で海軍に入り、終戦後はニュージール

ランドで捕虜生活をしましたが、

一昨年の秋に復員してみると、日本娘が進駐軍とたわむれて

るんでしょ。私は部下の遺骨を三つも四つも抱いて帰つ

て来たのに、現在に見る社会は、ブギウギ調子で浮かれて

るんです。私はもつと美しい夢をもっていました。祖国に

は、もつと真剣な再建気分がみなぎつてると考えていたん

です。夢は碎かれたんですね。その瞬間から、真面目に生き

てゆこうという気分がけしとんでしまいました。

原口 そうですよ。帰つてみると、家は焼けてるし、親は

死んでる。たった一人の婆さんがブリキ板をのせた小屋で

食うや食わずでいるのに、その隣近所には闇太りをした奴

が楽しそうにやつてるんです。どうせ生きるなら、面白くや

れと思つたんです。

(中略)

この座談会に出ている人々は、皆一つの教会にいる。小

林さんの温かい親心に抱かれて、間違いなく進みそうだ。

(後略)

信仰例話 (道友社刊『真実の道』より)

ふしぎは神

丁度私が神戸のある会社につとめていた時でした。ふとしたことから伝染病なる腸チブスにかかりました。

当時、私はキリスト教を信じ、度々教会にも行っていましたので、私が入院したと聞いて牧師の方もお出で下さいました。

ところが、私の下宿屋の奥さんが天理教の信者であることはよく知っていました。当時、
「天理教なんて、碌な宗教でない。むしろ、キリスト教に御入りなさい」と奥さんに申ししていた位でした。

こうする中に病はますます重くなって、熱は四十度迎を常にさまよい、意識は勿論明

話をよくわかるのですが、口でものを言うことが出来ません。

診察に来た医者が、「この状態が明朝までつづいたら駄目です」と言っているのなどはよく自分にわかります。それで、俺は死なないぞと言おうとし

二、三粒で空腹のおなか満腹になつたような感じで、私は神の加護を肯定せ

二、三粒で空腹のおなか満腹になつたような感じで、私は神の加護を肯定せ

せんではいられませんでした。

或る日、私は

干ぶどうが食べたくなり、看護

に来ていた弟をだまして、買って来て貰って食べたところ、

ほぼ快くなりつつあったのに、

熱は増し、遂に仮死の状態におち入りました。

仮死の状態にあっても、傍で看護している者や、医者

の口のように、外は山でかこま



好評発売中!

アナタへの手紙

信仰のこと

社会のこと

そして人生のこと

そよ風のように

やさしく

手元に届けたい

著 讓 吉澤

(新津分教会前会長・新潟教区長)

四六判並製 224頁
定価=1155円(税込) 〒200

養徳社 出版

天理市川原城町 388
☎(0743)62-4503
http://yotokusha.com/

「陽気」創刊60年記念出版

人生二終なし

じんせいにおわりなし

—父 柏木庫治を語る—

- 三人の兄妹によるてい談
- 「陽気」掲載記事
- 柏木庫治小伝

定価=1,260円(税込) 送料 200円

養徳社 よもやま話

○……秋の大祭にハワイより帰って来られた教会長さんと夕食を共にさせていただいた。初対面で少々、堅くなっていた私だったが、先生は誰彼と関係なく気さくに声をかけてくださるので気楽になる。お話も滅多に聞く事のないハワイの様子や普段の生活の事などウィットに富む会話が魅力的で直ぐに時間は過ぎていった。

そんな具合にハワイとの往復や国内の移動中、機内や車内でもコミュニケーションを図り、明るい先生の人柄に皆、引き込まれていくようだ。暖かく陽気な土地で生活をしておられるせいか、日本人は奥手で社交が苦手な人が多いと特に感じるらしく、次世代の若者を育てるためにハワイとの文化交流を進めたいと言われる。

戦後にハワイに渡られ、さぞご苦労の多い道中であったと思うが、「布教師をやつてご守護をいただいたら、布教師はやめられぬ」と力強く語っておられたのが印象的だった。

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

養徳社